

JAたかさきの野菜とお米を子ども食堂へ



JAたかさきとNPO法人ラッポルティは、11月12日に食品ロスの食材を有効活用すること等に関する協定書の締結式を行いました。具体的な取り組み内容は、同法人が運営する子ども食堂への食材提供です。今回は、JAよりお米30kgを寄贈しました。

この締結により、SDGsの実践を行います。SDGs（持続可能な開発目標）は、17の目標と169のターゲットで構成されています。この中で、特に目標2の「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する」や、目標12の「持続可能な消費生産形態を確保する」の実践が期待されます。

食の貧困化や孤食が問題視される現代において、子どもが人と関わりながら、安全で栄養のある食事をとることが求められています。そのような食事の環境づくりと、子どもたちが農業を身近に感じ、食と暮らしと学びを総合的に実践する食農教育活動の展開に貢献していきたいと思ひます。



SDGs に関する取り組み

2. 飢餓をゼロに

食の貧困が問題になっている中、子どもが安全かつ栄養のある食料を十分に得られるような取り組みが求められます。JAの野菜やお米の提供によって、これらの実現に貢献することが期待されます。

12. つくる責任 つかう責任

これまで、生産者がJAたかさき直売所の「グル米四季菜館」に出荷して売れ残った食材は、原則生産者が引き取り処分していましたが、これらの食材を子ども食堂に提供することで、食品ロスの解消が期待されます。

